

姫路港網干沖小型船舶係留施設（網干沖ポートパーク）の管理運営に関する評価（案）【平成28年度～令和2年度】  
（令和2年11月26日（木）姫路港網干沖小型船舶係留施設指定管理者候補者選定委員会）

1 施設維持管理業務

- ・ トイレをはじめ施設の清掃について、公募時の業務仕様書で示された水準（原則週2回以上実施）以上の頻度で実施（毎日実施）するなど、施設の快適性を向上させる取り組みを行っている。
- ・ R2年度の利用者アンケート調査の結果（参考資料2）によると、「やや不満」及び「大変不満」を除く割合（「普通」以上）について、清掃状況が88.4%、施設の点検・保守状況が81.8%と概ね高い評価を得ている。
- ・ 特に、新たに防犯カメラの設置による安全・防犯体制の強化や、水道環境の増設工事の実施など、利用者ニーズに応える取り組みも実施しており利用者からも高い評価を得ている。
- ・ 一方で、利用者からは台風や強風時における船舶破損を防止するためのパトロール実施や、施設の簡易修繕に係る指摘を受けている。

2 運營業務

- ・ 受付業務対応窓口の拡張や営業時間の延長〔計画上は繁忙期（5～9月）9:00～19:00、通常期（10～4月）9:00～17:00のところ、通年で繁忙期の対応〕など、利用者の利便性を向上させる取り組みを行っている。
- ・ R2年度の利用者アンケート調査の結果（参考資料2）によると、「やや不満」及び「大変不満」を除く割合（「普通」以上）について、日常の対応が87.5%、苦情対応が81.8%、事故・台風など緊急時の対応が80.8%、情報提供が79.8%、講習会等利用者サービスが73.1%と概ね高い評価を得ており、適切な運営がなされている。

3 利用状況

- ・ 社会情勢の変化に伴い、プレジャーボート艇数は全国的に減少傾向にあるが、施設のPRや体制強化等、入艇促進を図ることにより、艇置隻数の維持に努めている。
- ・ 利用者の利便性を高めるサービスの提供による利用者の定着化を図り、安定的な艇置数確保に努めている。

4 収支状況

- ・ 利用料収入が減少傾向にあるものの、自助努力により経費の削減に努め、協定で定めた県への還付金を確実に支払っている。

5 運営体制

- ・ 利用者からの苦情要望等に対して、苦情解決責任者、苦情受付担当者を配置し、特に苦情受付は複数の窓口配置するなど、苦情受付に真摯に対応している。

（参考）

姫路港網干沖小型船舶係留施設指定管理者候補者選定委員会委員

氏名	主な役職
瀧 真 輝	神戸大学大学院海事科学研究科准教授
廣 野 康 平	神戸大学大学院海事科学研究科准教授
和 田 貴 美 子	中小企業診断士
杉 浦 正 彦	兵庫県県土整備部土木局長